



万博開催地サミット 2005 in 愛知 公開シンポジウム

日時 2005年9月22日(木) 14:00~18:30

会場 名古屋能楽堂

開会宣言



神田 真秋
(愛知県知事)

皆さん、こんにちは。ご紹介をいただきました地元愛知県知事の神田でございます。今日はこのシンポジウムを開催しましたところ、外国からも多くのお客様、また県民、市民の方々にもたくさんご参加いただき、こうして盛大に力強く開催できますことを心からお祝いし、お礼を申し上げたいと存じます。

1851年、今からもう150年以上前に、第1回のロンドン万博が開催されました。150年という長い長い歴史を博覧会は持つわけですが、その間、多くの変化・変遷を経てまいりました。文化的にも社会的にも経済的にも、この150年間、変化がありましただけに、当然博覧会の意義や役割、また開催の形や目的など、さまざまな面で変化を来たします。

日本におきましては、ちょうど35年前に大阪万博が開催されたわけですが、そのときはどちらかといえば高度経済成長の中で、新しい科学技術というものを100%信ずることができた時代であったと思います。しかし、今ではその科学万能というものも、

いろいろと反省しなければならない時代を迎えたわけで、私どものこの愛知万博は、そうした反省に立って環境というものを真正面に据えた博覧会を開催することになったわけです。

その愛知万博ですが、おかげさまで大変な盛況ぶりです。予定入場者1500万人に対し、すでに2100万人を超え、いよいよ最終日を迎えようとしているところでございます。

特に私ども、この博覧会の中では、環境を徹底的に議論できるような形で計画しただけではなく、恐らく150年の博覧会の歴史の中で、初めてのことだと思っておりますが、市民参加型を導入しました。ボランティアの皆様方や、NPOの皆様方、そして広く県民、市民の皆様方に、計画の段階から開催後も積極的にかかわっていただいております。これも、新しい博覧会の姿かたちであろうと考えているところでございます。

こうした点を評価していただいたのかもしれませんが、本当に毎日にぎわっておりますし、皆様方からお褒めの言葉などもいただいております。これも今日、こうしてお集まりいただいております皆様方のご理解とご協力、ご支援の結果でありまして、改めてお礼を申し上げたいと存じます。

しかし、博覧会はゴールではなく、新たなスタートだと私どもは考えております。私どもは博覧会で何を学び、何を成果として取り入れるのか。これからが大変重要な課題であろうと思っております。それだけに、今回のこのシンポジウムは過去に博覧会を開催した都市・地域の皆様方、それからこれから博覧会を開催しようとする、計画中の地域の皆様方が一緒になって、博覧会の意義と、それが地域にどう影響



響を与え、どのような地域づくりに貢献できるのかを、議論をしていただけるということですので、私どもは、大いにご期待を申し上げているところです。

博覧会にかかわりの深い、さまざまな方がこのシンポジウムに参加していただくわけですが、どうか今日お集まりいただきました皆様方にも、博覧会を改めて考える機会として、大いに活かしていただければ、これにすぐる幸せはございません。どうか最後までよろしくお願い申し上げます。

いよいよ博覧会のフィナーレが近づいてまいりました。15年以上にわたって準備をしてまいりました私ども地元としましては、本当に感無量であります。そして寂しいような、あるいは名残惜しいような気持ちであります。けれども、逆にこれからの地域づくりを頑張ろうというような気持ちを、新たにしているところです。どうか一層のご支援とご協力をいただき、そして共に手を取り合って、これから住み良い社会作りのために努力をしていきたいと思っております。重ねてご協力、ご理解をお願い申し上げます。極めて簡単でございますけれども、開会にあたっての一言ごあいさつとさせていただきます。

今日はありがとうございました。

あいさつ



呉 建民
(BIER議長)

神田知事、ご参加の皆様こんにちは。私の友人であるBIER事務局長口セルタレス氏とともに、この万博開催都市・地域連盟第2回連盟会議の皆様にご挨拶申し上げます。

国際博覧会の開催経験を持つ都市・地域の皆様は、本万博の真価を誰よりもよく理解されているのではないのでしょうか。私自身、数年前は駐仏中国大使として2010年の上海万博誘致に関わっておりました。万博というものを外部から見ていたわけです。そして2年前にBIERの議長に任命されてからは、内側から万博を見つめてまいりました。その結果、私はこれまで以上に万博の良さがわかるようになったと思います。本日はこういった観点から少しお話をさせていただきます。

万博には非常に重要な意味があると思います。

まず1つには教育的影響があげられます。この愛知万博に来られた2,200万人の方々は「自然の叡智」から多くの事を学ばれたことでしょう。昨日、私は40名の子ども記者たちのインタビューを受けました。彼らは万博についてのいろいろな質問を私にしてきたわけですが、私が質問する番になりまして、今度は私のほうから「愛知万博をみんなはどう思う？」と聞きました。する



と「大好きだ」という答えが返ってきました。40名のうち10人の子どもたちは、愛知万博に20回も行ったという答えでした。そして他の20人は10回も行ったと答えていました。子どもたちは何度も愛知万博へ行っている、つまり愛知万博が大好きだという事なのです。

2つ目は、一体感です。近代社会の中で生活しておりますと、個人主義的になりがちです。しかし、万博を通してみんなが一体感を持つことができます。お年寄りも若者も、男性も女性も、日本人も外国人も国籍に関係なく、みんなが集まっているのを見て感動を覚えました。車椅子の人も、ハンディキャップに関係なく、同行の方々に支えられながら来場してくれるというのは、この上なく素晴らしいことだと思います。人々が集まることで連帯意識や、「みんなの地球」という意識が生まれます。

そして3つ目は、交流です。万博を通して様々な交流の機会が生まれます。万博とは最大の交流イベントなのです。2,200万人がこの愛知万博を訪れたわけですが、それだけの人々が、同じ場所で共に楽しむということが、他にあるのでしょうか。万博だからこそ、これだけ多くの方がいろいろな交流を楽しむことができ、お互いの理解が深まります。今日、必要なのは何と言っても対話です。様々な文化や国の間における対話が必要なのです。そのチャンスが万博というわけです。

4つ目には、協力です。今日、この世界の中で全く孤立した状態で発展が望める国はありません。国際的な協力は絶対に必要です。そしてこの協力は、やはり相互の理解なくしては築けません。この相互の理解を高めるうえで、万博は目を見張る貢献をしています。

そして5つ目には、技術革新です。非常に優秀な人であっても、全く何もない状態で技術革新を起こすことはできません。やはり技術革新のためには、インスピレーションや、人々との交流が必要です。そういった意味で、万博というのは考えたり、工夫したりするための、糧となる材料を豊富に提供してくれるわけです。恐らく愛知万博が終わったあと、革新的なアイデアが各地で次々と発表されることでしょう。

最後になりましたが、BIEを代表して、愛知県ならびに愛知県民の皆様、そして日本政府および日本国民の皆様に、この素晴らしい成功に対して心よりお祝い申し上げます。2,200万人の方々が、この愛知万博を訪れました。まさに予想以上の来場者で、BIEといたしましても、非常に嬉しく思っております。全世界の人々と共に、この喜びと幸せを分かち合いたいと思います。ご清聴ありがとうございました。